

# 防除所情報第3号

令和3年12月16日  
山梨県病害虫防除所

## 【施設栽培トマトの黄化葉巻病対策について（半促成栽培開始前の対策）】

### [発生の状況]

- (1) 県内施設トマト栽培地域に設置した黄色粘着板において、抑制作型の生育初期にあたる8月のコナジラミ類成虫誘殺数は、11.2頭/日/枚（平年値：3.9頭/日/枚）と平年より多かった。
- (2) トマト黄化葉巻病の発病株率は、抑制作型の生育前半にあたる9月に実施した定点調査において、25.2%（平年値：10.1%）と平年より多かった。本病害はコナジラミ類の一種であるタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻ウイルス（以下、TYLCVという。）により引き起こされる。
- (3) 11月の施設内のコナジラミ類成虫誘殺数は、0.9頭/日/枚（平年値：1.9頭/日/枚）と平年値より少ないものの、前年（0.4頭/日/枚）より多く見られた。また、12月の定点調査では、コナジラミ類の寄生株率が22%と前年値に比べ5.1倍となっており、次作への影響が懸念される。

### [防除対策]

本病害の病原ウイルスであるTYLCVの感染を防ぐには、媒介虫であるタバココナジラミの防除が重要であるため、以下の対策を徹底する。

#### 抑制裁培終了時の対策

- 栽培終了時には株を地際で切断し、十分に枯らしてから施設外に持ち出す。
- 施設内外の雑草は、コナジラミ類の増殖場所となるため、除草を徹底する。
- タバココナジラミは低温に弱く、冬期氷点下になる地域では露地越冬が困難であるため、厳冬期に施設を開放して低温条件にし、施設内で越冬させないようにする。

#### 半促成栽培開始時の対策

- 施設開口部（天窗、側窓、換気扇口等）は0.4mm目以下の防虫ネットを展張し、コナジラミ類の侵入を防ぐ。すでに設置している場合は、隙間や破れ等がないか注意して確認し、経年劣化により破れ等がある場合は直ちに補修する。
- 栽培施設の出入口は二重構造にし、開放状態にならないようにする。
- 病害虫の寄生がない苗であることを確認する。
- 育苗期や苗導入時から防除を徹底し、導入後はすぐにポットへの薬剤処理を行う。また、定植時には粒剤を使用する。（薬剤については表1参照）
- ほ場周辺や施設内には黄色粘着テープや銀色反射資材（UVシルバー等）を設置し、施設内へのコナジラミ類の侵入を防止するとともに、施設内に入ってしまったコナジラミ類を誘殺する。

表1 トマト育苗期から定植時におけるコナジラミ類に登録のある主な薬剤

薬剤名	RACコード	使用量・希釈水量	使用方法	使用時期	使用回数
ベリマークSC	28	薬量 25ml/400株 (希釈水量10~20L/400株)	灌注	育苗期後半~ 定植当日	1回※1
プリロッソ粒剤オメガ	28	2g/株	株元散布	育苗期後半~ 定植当日	1回※1
ベストガード粒剤	4A	1~2g/株	植穴処理 土壌混和	定植時	1回
スタークル粒剤 アルバリン粒剤	4A	1~2g/株	植穴土壌混和	定植時	1回

※1 ベリマークSC、プリロッソ粒剤オメガの定植時までの使用はどちらか1回まで

※2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の定植時の使用はどちらか1回まで



発病初期の様子  
先端部から徐々に黄化する。



症状が進むと葉脈付近以外は黄化し、  
葉巻症状となる。節間が短くなり、生育  
が著しく不良となる。



葉裏に寄生する成虫、幼虫及び卵



タバココナジラミ成虫



タバココナジラミ幼虫